



新学長就任

4月から金川前学長のあとを引き継いで学長となりました。石川県立看護大学も開設から6年たち、この3月には看護学部から第3期の卒業生が巣立ちました。また、第1期の大学院修士の学位取得者が修了しました。この大学で学んだ方々がいろいろな方面で活躍を始めています。病院の病棟だけではなく、保健所、学校などで働いている方もいます。

先日ある病院の看護部長さんから、看護大の卒業生はさすがにしっかりしていて自分で考えて行動している、とお褒めの言葉をいただきました。看護の仕事は新しいことに次々と向かっていかなければなりません。基本は教わることができても、新しいことは自分で学んで自分で考えていかなければ前へ進めません。看護大学で看護の基本だけでなく、自分で解決していく能力を身につけて卒業した学生が、社会に広がっていることを確かめられました。大変うれしく思っています。

看護大学は働いている方々が学び、研究することへも協

石川県立看護大学学長

木村 賛



力を惜しみません。国内外の看護・医療関係の方々や本学卒業生への講演会、研修会を毎年多数企画しています。学外の方々との共同研究も行っています。本年4月から開設された大学院博士後期課程には働きながら研究できる制度があります。いま5名の新入学生が3年後の看護学博士取得を目指して、研究を始めていますが、その内の3名は職についたままで大学院へ通っています。

いま社会が高度の看護教育と研究を緊急に必要としていることは、近年たくさんの看護系大学と大学院が新設されていることからわかります。その要請にこれからも応えて行きたいと思います。

目次

新学長就任	1	キャンパスライフ	5
大学の主な動き	2	看護学実習	5
第7回入学式	2	自治会活動	6
博士後期課程について	2	サークル活動紹介	6
新入生合宿研修	3	大学祭のお知らせ	7
オープンキャンパス	3	図書館から	8
夏期アメリカ看護研修	3	地域ケア総合センターから	8
新任教職員紹介	4	キャンパススケジュール2006年度後期	8



石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

大学 看護学部看護学科
大学院 看護学研究科

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp>
E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

大学の主な動き

第7回入学式

4月5日 石川県立看護大学に看護学部89名、大学院看護学研究科前期課程6名、後期課程5名の学生の皆さんが入学されました。おめでとうございます。

本学も2000年に開学して以来7回目の入学式でした。入学生の皆さんの目は輝き、自らの将来の目標や夢に向かって、希望、勇気、期待、自らの可能性への挑戦になどを秘めてた表情はとても素敵でした。

入学式の翌日からガイダンスを教務委員会で行いました。その際に黒板に書きました内容をもう一度整理してご紹介しておきます。

〈学生であるとはどういうことだろうか?〉について教務委員長が学生時代に配布された資料を引用して話しました。

〈自由〉大学生という時代は、情熱やエネルギーが内部から豊かに湧きあがり、社会の諸現象に対して、自ら主体的・行動的にチャレンジしていけるときである。

〈自在〉大学生であるということは、社会の人々が将来への期待を込めて、未熟であるという不足点を広い寛容度をもって迎え入れてくれる余地が広いということである。

〈自律〉大いに学んで生きる者として、ゆとりのある時期を自らのプランで多くの人々の生活にじかに触れて、自分の視野や世界を広げるように活用するのがよい。

〈相談〉学びつつある者として、時には、立ち止まって思案し、教員を相談相手とすることができるのが大学生の特権である。

〈協働〉自由自在の「自己」が、自由自在の「他者」とめぐりあい、ともに交流し「関係の場」が生まれ、それを通して協同の成果が創出されてくる。

大いに石川県立看護大学で学んでください。



博士後期課程について

石川県立看護大学は平成18年4月に後期博士課程を設置し、5人の後期博士課程の学生が入学許可となり、勉学に勤しんでいます。

我が国では看護系大学が最近とみに増加する中で、博士前期課程（修士課程）や博士後期課程も平行して増加しています。

後期博士課程の目的は、①看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成、②科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成、③対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の養成を掲げています。

この課程では10単位の修得が必要ですが、博士論文を作成することが重要であります。

看護学が独自の学問領域を確立し、看護学博士課程が十分に機能するまでにかかなりの期間を要しているため、現在看護学領域の研究者の中には、医学、保健学等近接した領域での学位取得者も多く見られます。

しかし、当大学院は看護学博士を輩出するのであり、論文の内容や評価をめぐって議論になることと思います。

すなわち、看護学の発展に寄与するものであり、看護学が追求するものとして、看護学としての独自性や研究としての独創性のある論文を期待することになります。

学生はもちろんのこと、教員の指導力や大学の学問的なレベルの評価も問われるように思います。

いずれにしても、初めての後期博士課程であり、今後試行錯誤をくりかえしながら、よい成果が発信できるよう頑張りたいと思います。

新入生合宿研修



今年度はじめての試みとして新入生合宿研修を5月28日、29日の一泊二日（県立白山青年の家）で行いました。

初日は生憎の天気でしたが白山麓の自然に囲まれ何とかクイズラリーを行い、日頃の運動不足を痛感した人もあったようでした。グループワークでは「自分の将来像」というテーマにそって話し合いを行い、学内では聞くことのできない本音トークもありお互いの新たな一面を見出すことができました。二日目は当大学の

一期生でもあり現在金沢医療センターで勤務されている山崎裕子さんと金沢大学附属病院副看護師の村上恵美さんに講演をお願いしました。まだ臨床現場を体験したことのない新入生にとっては難しいところもあったようですが、大いに刺激になりました。カレーライス作りでは火をおこし飯盒でお米を炊くという経験もできました。予想に反して随分上手にできていたようでした。

期待と不安の中で始まった大学生活にも少し慣れ、この合宿研修が新入生同士および教職員とのさらなる交流を深める良いきっかけになったのではないかと思います。



オープンキャンパス

2006年度のオープンキャンパスが7月16日(日)開催された。

本年度の参加申し込みは丁度250名(昨年度：192名)であったが、当日はあいにくの雨模様であり、かつ大学入試の業者模試と重なったにもかかわらず280名以上の参加者があった。富山県からの50名前後を初め、福井、新潟(各2名)群馬、千葉、静岡、岐阜など、遠方から参加者と父兄の参加者が大幅に増えたことなどが特徴的であった。

企画としては例年と大きな差異はないが、参加者の数が多かったので、公開授業、フィールド実習・国際交流紹介はほぼ収容定員に近く、入試相談コーナーも盛況であった。全体説明会、学生交流コーナーなどに関してもアンケートでの評価は上々であった。予想人数を超えた参加者にも関わらず円滑に実施されたのは、実行委員会の周到な準備とともに、協力学生の頑張りによるところが大きい。こうしたイベントを通して、教員と学生の一体感が高まったり、学生の成長が実感できるのは実に嬉しい副産物である。

参加者が1人でも多く志願者になってくれることを期待したい。



夏期アメリカ看護研修

7月16日に開催されたオープンキャンパスで、本学における国際交流委員会の活動について紹介しました。さまざまな活動の中でも、やはり夏期アメリカ看護研修に興味があるようで、大勢の受験生や保護者の方々が熱心に聴いてくださいました。昨年度の研修参加学生がたくさん写真を使って、実際に経験したこと、



楽しかったこと、とまどったことなどいきいきと話してくれたプレゼンテーションは好評でした。ご父兄の中からは、日程や費用など具体的な質問も出て、この研修に対する関心の高さが伺えました。今年度で3回目をむかえる夏期アメリカ看護研修は14名が参加します。また、今年度から学部生の参加者は国際看護論の単位を取得することができます。さまざまな事前準備を重ねて、8月末に出発します。参加者たちは8月21日に開催された壮行会でそれぞれの研修に対する期待を語ってくれました。健康と安全に注意して有意義な研修になることを祈っています。

新任教職員紹介



多久和典子教授
(保健・治療学)

2006年4月から健康科学講座に着任しました。申すまでも無く、わが国は未曾有の少子高齢化社会に突入し、加えて、不登校・NEET・家庭内暴力・

常識を逸した犯罪の増加など、広汎で多因子の要因に由来する精神的・社会的問題を含め、近未来に多くの不安を抱えています。そのような状況にあって、石川県立看護大学ならではの science-based nursing の学びのお手伝いを通じて、これからの日本の健康推進を担う若人の育成に少しでも貢献出来れば幸いに存じます。海辺の明るい陽光のもと、四季おりおりの花が彩りを添える美しいキャンパスはこれまで私の経験したことのないじつに豊かな環境であり、颯爽と行きかう先生方は皆生き生きと輝いて見えます。また本学の学生さんは看護師・保健師をめざす学生としてのプロ意識が高く、授業への反応がヴィヴィッドでとても励まされます。どうぞよろしくをお願いします。



阿部智恵子助教授
(地域看護学)

私は、現場経験の後、栃木県で地域看護学の教員として5年間勤めてまいりました。今、関心のあることは、地域の歴史や環境についてです。栃木では、

地域のゼミで、学生と共に、大学から40分の距離にある「道の駅」まで徒歩で歩く体験を取り入れてきました。

新緑の中を歩き、地域の歴史や環境を肌で感じ、新たな発見がありました。緑多いこの地が、かつては、戦闘機が飛び交う飛行場であったことなど。歴史や足跡が、人々の暮らしとどうむすびついているかということについても考えるきっかけとなりました。

地域の人々と交流を持ち、「道の駅」のバリアフリーの電話や休憩所、トイレの工夫に目を見張り、地域で暮らすことと環境との関係についても、学ぶことができました。

石川県も歴史や伝統のある県であり、そこに暮らすことのできる喜びを感じております。これからは、私自身が石川県の歴史や環境について深く学び、そのことを教育に活かしていけるようにしたいと考えております。



末弘 美樹助教授(英語)

縁あって今年4月に赴任しました。大阪出身であるため、これまで関西地方を拠点に教育・研究活動を行って参りました。社会学(社会心理学)・英語教育(英語教授法・バイリンガル

教育)・言語文化学といった学問を国内と海外の3つの大学院で学んできました。共通点がない学問領域に思われがちですが、私の研究テーマが「異文化接触とアイデンティティ」であったために、このような広範囲領域で学ぶ結果になりました。

従って、私の教育と研究の基本に置いている概念は「アイデンティティ」です。教育の基本を「教育基本法の教育目的である『人格形成』を果たすこと」であると考えています。つまり、個の「アイデンティティ」の育成です。大学教育は、この教育の根本である人間教育の上に、その個人が社会の成員になる上で必要かつ高度な専門分野の教育を提供する場であると考えています。従って、これまで私は人間教育の基本概念を土台に将来専門分野の現場で必要となる英語に焦点を当てた英語教育を展開してきました。

その中でも特に力を入れている英語教育は、ESP教育(English as Specific Purposes: 特定の目的のための英語、専門英語教育)とコンピューターを利用した授業の取り組みです。本学でも引き続きこの教育と研究を行って参りたいと願っております。どうぞよろしくご願ひ申し上げます。



日吉 孝子講師
(基礎看護学)

本年度4月から本学に赴任しました日吉孝子と申します。ここに至るまでの人生は、臨床看護師としての働き盛りの真只中に思うところあり看護大学へ

チャレンジしました。現役の学生に混じって4年間勉強したのですが、それでは飽き足らず?そのまま大学院に進学してこの春終了することができ現在に至っております。院生時代は、大気環境と健康影響(アレルギー)について研究し、傍らでは看護学校で公衆衛生の末席を担当しておりました。現在は基礎看護学を担当しております。基礎看護は最も看護学の中で重要な土台の部分であり大変責任を感じております。学生には自由にのびのびと、でもしっかり知識も技術も身につけて、自分で考え行動できるようになって欲しいと思っております。九州生まれの九州育ち。北陸との縁は皆無な人生から、この地に住むことになるうとは夢にも思ってもいませんでした。まずは今年の冬に無事雪かきの技術を身につけることが生活の目標です。どうぞよろしくご願ひ申し上げます。

キャンパスライフ

フィールド実習



1年 本田 瑛子

フィールド実習の目的「地域との交流」ということで、私は陸上自衛隊金沢駐屯地へ行ってきました。他の実習先は旅館や動物病院などもありましたが、私は「地域」という括りから広がったものを対象にすることを覚える必要があると考えました。報道関係を賑わせていた自衛隊のイラク派遣。先日その撤退が完了しましたが、よく関連のニュースなどを耳にしていたにもかかわらず、自衛隊についての知識がほとんどなく、このままではよくないと思い、今回自衛隊に対象を向けました。この状態での今回の実習はとても刺激的でした。歴史、その中の日露戦争や世界大戦においての金沢駐屯地の重要性と、金沢という地域での交流の状況を知り、大きな理解が得られました。世界との関連と地域との相互作用、この両者に対する理解を深められたことは、これからの社会を担っていく人間として大変必要なことだと思います。大きくいえば、平和について考えるきっかけにもなったといえるでしょう。これを活かしてこれからも頑張っていこうと思える貴重な体験でした。

フィールド実習



3年次編入生 北村明美

私は今回の実習にあたり、県内で実際にホースセラピーを行っている、石川県馬事振興協会にて実習させていただきました。

アニマルセラピーの起源は馬にあり、今ではホースセラピーとして確立されています。現在アニマルセラピーは、癒し目的だけでなく、医療福祉の場においてもその輪が広がっています。

実際にセラピーを見学・体験させていただき、馬を理解し、対象となる人間の特性も考え、セラピーを行う際の子供と馬に対する配慮と、セラピー中のいきいきとした子供たちの反応に驚きました。馬とふれあうことによるセラピー効果と癒しについて、馬が与えてくれるものが何か、具体的に説明することは難しいのですが、私自身、馬の優しさとその仕草に心が癒されました。アニマルセラピーの効果は様々あり、心理的作用効果は動物とふれあうことで得られる癒しによる効果も含まれていると感じました。今後は、対象理解や集団の相乗効果など実習の学びを生かしていきたいと思っています。

小児実習 I



3年 中村 仁美

看護では、赤ちゃんからお年寄りまで、あらゆる年齢層の人が対象となり、援助方法も発達段階に応じて工夫していく必要がある。しかし、自分とは違う発達段階にある対象への立場変換は難しく、小児の保健指導に関しては特に、理解して欲しいことを伝えることに困難を感じた。4歳児がどこまで理解でき、どうすれば興味を持って最後まで話を聞いてもらえるかなどがわからず、指導案作成にとっても苦労した。私の保健指導のテーマは「よくかんでたべよう」で、紙芝居を用いて噛む事の大切さを説明した。難しいテーマだったが、保育士さんからのアドバイス、子ども達の関わりの中での学びを最大限に生かし、話し方を工夫したり、ジェスチャーを加えたりして、できるだけわかりやすく働きかけると、子ども達は昼食時にしっかり意識していたし、友達に働きかけている子もいて、とてもやりがいを感じた。子ども達はとても純粋で、言った事を素直に吸収し、実行に移せる素晴らしい力を持っている。その力を引き出し上手く活かせるか否かが、働きかける側の腕にかかっている。小児の実習を通して、対象を理解し、発達段階に合わせて個性のある関わりをすることの大切さを学んだ。

VI 段階実習



4年 高 知嘉子

「自分らしさ」とは、「その人らしさ」のある暮らしとはどのようにとらえたらいいのだろうか。在宅・地域実習では、対象者とその家族がこれまで培ってきた生活の中で生き生きと暮らすために、「その人らしさ」を尊重した看護が大切であると学びました。しかし、「その人らしさ」は一言で表現できるものではありません。実習を通して対象者を知り、在宅・地域でどのような暮らしを求めているのかを把握し、実現に向けてのひとつのかけ橋として看護を提供することが「その人らしさ」のある暮らしにつながるのではないかと考えました。実習では、新生児や高齢者、病気や障害を持ちながら生活を営む療養者、介護する家族といったあらゆる健康レベル、発達段階の方々と出会い、対象に応じた関わりや支援が大切であると感じました。また、保健師、訪問看護師といった看護職、栄養士、ケアマネージャーなどの他の専門職と関わり、地域での暮らしを支えるケアシステムが人と人との温かいつながりによって成り立っていることを学びました。長いスパンで地域住民や在宅療養者と関わり、日々の生活での喜びや苦しみを共に分かち合う看護の魅力を発見するとともに、その人らしさのある看護を提供できるように今後も学びを深めていきたいと思っています。

自治会活動

私たち石川県立看護大学自治会について少し説明したいと思います。私たちは、中学校や高校でいう生徒会のような役割をしています。この自治会のメンバーは基本的に全学生なのですが、規模が大きすぎるため各学年から5名程度の役員がいて自治会が成り立っています。その自治会の役員を選出、決定するために5月には学生大会を開き、多くの学生からの賛成により今年の役員が決定しました。今年は、1、2年生役員が多くとても活気のある自治会となっています。学生大会の後、5月27日には自治会主催のソフトボール大会を行いました。このソフトボール大会には多くの学生や教員のかたが参加してくれ、去年卒業された先輩も遊びに来てくれるなどとても有意義な大会になりました。この大会により教員、学生それぞれが改めてよい関係を作る機会になったと思います。今後も、自治会から学生へこういった機会を多く提供していきたいと思っています。

サークル活動紹介

吹奏楽サークル 4年 松永 彩

吹奏楽サークルは、音楽が大好きな1年生3人で作った、新しいサークルです。

現在メンバーは1年生9人2年生2人の計11名です。

今は楽器もメンバーも揃い、楽しく練習していますが、「学校の楽器」がないので、個人で購入したり他校から借りてきたりと、設立までかなりの苦勞がありました。

今はピックバンドジャズを中心に演奏していますが、いずれは様々なジャンルの曲に挑戦したいと考えています。

主な活動予定としては、オープンキャンパスや大学祭の時に演奏することがメインですが、機会があれば病院や保育園へ訪問演奏にも行きたいと考えています。日々、『みんなで楽しく』をモットーに、大学の体育館で練習しています。

現在の練習曲は、「イン・ザ・ムード」「ムーンライト・セレナーデ」「A列車で行こう」の3曲です。有名な曲なので、聞いたことがある方も多いと思います。興味のある方は大学祭での演奏を是非聞きにいらしてください。

まだまだ未熟な面もあり、お聞き苦しい点もありますが、部員一同、精一杯練習に励んでいきますので、これから応援よろしくお願いします。



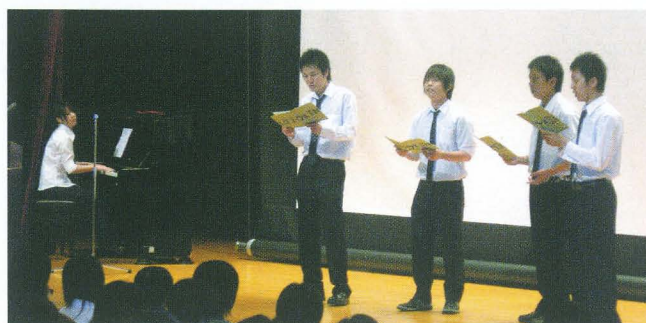
音楽サークル UJI☆KIN (ウジキン)

こんにちは、UJI☆KIN (ウジキン) です。今年度新たに設立された歌うサークルです。昨年度までは音楽サークルの一部として、男性のみで組織していたグループでアカペラを中心に歌っていましたが、今年度からはピアノ伴奏がほしいということでピアニストを募集したところ、一年生が一人参加してくれてウジキン初の女性メンバーが誕生しました。喜ばしいことです。

さてさて、先ほどからウジキン、ウジキンと言っていますが、「ウジキン」ってなに？と思っている人がたくさんいるのではないのでしょうか。UJI☆KIN (ウジキン) という名前の由来を説明しますねえ。えー……メンバーで某ファミリーレストランに行き、何気なく注文した宇治金時のかき氷を食べている時でした、「自分たちもこんな宇治金時みたいに甘くて、ほろ苦い、さわやかな歌声で歌いたい！そしてその歌を聴かせたい！！」という想いから「UJI☆KIN」と命名したのです。

活動としては、新入生歓迎会、オープンキャンパス、大学祭が挙げられます。練習は週一回、メンバーで集まりますが、メンバーの学年が違うことから時間がなかなか合わず、本番が近くなれば夜間練習を行ったり、徹夜することもしばしば……。

今年度のオープンキャンパスでは四年生二人、二年生二人、一年生一人で参加し、「ここにしか咲かない花」歌わせていただきました。UJI☆KINとしては、とても楽しんで歌うことができた良いステージだったと感じています。今後もより一層努力しステージに多く立てるようにしていきたいと考えています。



大学祭のお知らせ

第7回看護大学祭

今年の大学祭のテーマは「kandacation」です。

コンセプトとして、「**看大がひとつになる**」（教職員と生徒が授業という枠を越えて、交流を持つ）「**地域がひとつになる**」（地域密着を目標とする大学の精神にのっとり、地域の方々との関わりを深める）、「**世界貢献**」（売上金の一部をユニセフに寄付する）、「**ほらっ、笑顔**」（大学祭という機会を通じて気がつけば生徒をはじめ教職員、そして地域住民の方々、世界の人々が笑っている）という思いがこめられています。

大学祭実行委員一同、少しでも多くの人に本校に足を運んでいただき、石川県立看護大学で笑顔になっていただけたら幸いです。



日時：10月28日（土）9：30～17：30
29日（日）9：30～17：00

場所：石川県立看護大学



♡ 催し物 ♡

10月28日（土）

- ・カラオケ大会
- ・劇的ビフォーアフター
- ・学祭企画（ツイスター）など。

10月29日（日）

- ・バンド演奏
- ・ビンゴ大会
- ・ミスユニナース
- ・学祭企画（○×クイズ）
- ・子供のダンスなど。

両日開催

- ・看護体験
- ・スタンプラリー
- ・ソーラン節
- ・縁日・模擬店など



講演会

10月28日（土）
10:30～12:00

講師 木藤潮香氏

「看とるころ
～1リットルの涙～」

入場無料

昨年秋に、大ヒットしたドラマ
「1リットルの涙」の主人公、
故木藤亜也さんのお母様です。

図書館から

2005年度末で蔵書数46,890冊、視聴覚資料約1,900タイトル、データベース（Pubmed、CHINAL、医中誌など）8件を備えている。入館者総数60,140人（1日平均260人）、館外貸し出し冊総数18,978冊、他機関との文献複写依頼・受付総数2,390件、館内コピー枚数42,827と、小規模な看護系単科大学としては図書館の利用頻度はかなり高いと言える。

また、学外利用者総数も5,657人と多く、内県内の医療関係者が約半数を占める状況は、本学図書館が地域、特に県内の医療関係者に開かれ、その質的向上の一翼を担っている。ただし、卒業生をはじめとして、学外利用者が年ごとに増加すると同時に、図書館員の仕事量の増大と同時に、文献複写等に伴う支払い処理の問題などが生じている。

図書館は大学の教育研究機能の中核である。そのため、緊縮財政の中でも、教育に関わる基本図書、新しい研究資料の購入、利用者への便宜のための人員は確保されるように努力していきたい。

地域ケア総合センターから

看護研究スキルアップ講座

看護の臨床現場においては、現場の士気を高めることや、看護ケアまたは看護提供システムの向上や改善めざして、研究活動が盛んに行われています。しかし、現場で研究を進めるには、文献検索ツールが整備されていなかったり、研究の指導者がいない等の課題が多くあります。センターには大学教員による研究指導の依頼が多く、現在、多くの教員が各施設に出向いていますが、対応には限界があります。そこで、現場の研究を支援するために、本年度から、6つのコースから成る「看護研究スキルアップ講座」を設けました。研究経験のある看護職の方々を対象とし、看護研究について、「わかる」だけでなく、「使える」段階をめざしています。看護研究論文解説コース（3回）、統計の基礎コースⅠ（2回）、統計の基礎コースⅡ（2回）、事例研究コース（3回）、アクションリサーチコース（1回）、看護に役立つEBM（Evidence based Medicine）コース（3回）があります。それぞれ10～30名程度の少人数定員の実践的な講座です。現在、3つのコースが終了しましたが、次年度も今年度の講座参加者の要望を取り入れ、新たなコースを増やすための検討をしていく予定です。



キャンパススケジュール 2006年度後期

10月2日(月)	後期授業開始
10月2日(月)～13日(金)	後期履修登録受付（ただし、2年次生は9月25日(月)～10月13日(金)）
10月28日(土)・29日(日)	大学祭（看大祭）
12月25日(月)～1月6日(土)	冬季休業（ただし、4年次生は12月26日(火)～1月6日(土)）
2月25日(日)	入学試験（前期日程）
3月12日(月)	入学試験（後期日程）
3月12日(月)～	春期休業
3月17日(土)	卒業式・終了式

発行 ● 石川県立看護大学

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp>
E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp